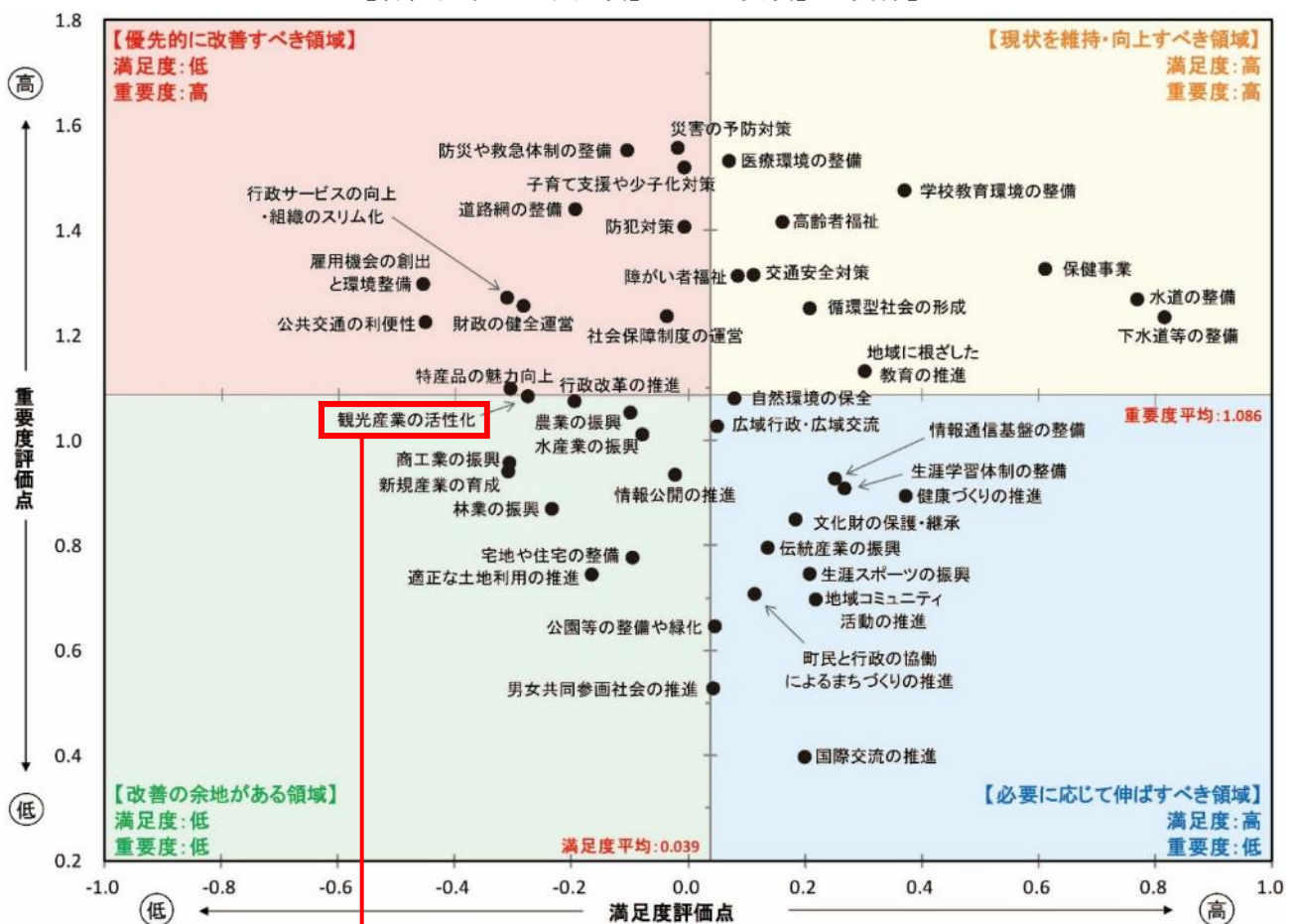


2. 本町における観光振興の方向性

(1) 町民意識調査結果等に見る観光振興の必要性

- 第二次越前町総合振興計画、越前町人口ビジョン、越前町総合戦略の策定に向けた基礎資料とするため、平成 27 年 6～7 月に町民意識調査を実施し、993 票（回収率 39.7%）の回答を得ました。
- 本町が展開する施策の満足度や重要度に関する設問について、満足度が低く重要度が高い施策（優先的に対処すべき施策）として、「雇用機会の創出と環境整備」、「特産品の魅力向上」、「子育て支援や少子化対策」、「公共交通の利便性」、「観光産業の活性化」、「道路網の整備」、「防犯対策」、「災害の予防対策」、「防災や救急体制の整備」、「社会保障制度の運営」、「行政サービスの向上・組織のスリム化」、「財政の健全運営」が挙げられています。
- また、同時期に実施した中学生アンケート調査（町内の中学 2～3 年生、387 票）では、「越前町が今後のまちづくりで重点的に取り組むべきこと」として、『町外から多くの人が訪れる観光のまちづくり』が約 3 割を占めています。さらに、「越前町ふるさと未来会議」では『越前町にはカニや水仙など有名な物があるので、若い人など幅広い年代層の観光客を集める施設を作ることで魅力を高め、住みたいと思ってもらい、町全体が活性化すればよい。』との意見が挙げられています。

【各種施策の「満足度」と「重要度」の関係】



第二次総合振興計画におけるリーディングプロジェクト
(将来像実現のための骨格となるべき施策)に位置づけ

第5章 リーディングプロジェクト

まちづくりの課題を克服し、基本理念として設定した『町民一人ひとりが幸せを実感し、誇りをもって充実した人生を歩み続けることができる「ふるさと越前町」の創生』に基づき、将来像『人

と技 海土里織りなす 快適なまち』を実現するため、骨格となるべき施策を4つのリーディングプロジェクトとして位置づけます。

● Project 1 — 住環境・公共交通・空き家対策 —

『快適居住プロジェクト』

便利で快適な住環境を形成し、定住人口を維持・増加させていくため、道路や公園などの各種インフラ整備をはじめ、空き家の利活用による移住・定住促進、公共交通の充実、未利用地などの宅地化の促進を図ります。

- 空き家の利活用による定住人口増加
- 新たな地域公共交通の仕組みづくり
- 未利用地などを活かした宅地の供給

● Project 2 — 結婚・出産・子育て・教育対策 —

『人財育成プロジェクト』

結婚・出産・子育てに関する包括的な支援を行い、出生数の増加を図るとともに、次代を担う「人財（たから）」を育成していくため、家庭・地域・学校での教育・スポーツ環境の充実を図ります。

- 出会い・結婚・出産への支援
- 子育て環境や支援体制の充実
- 家庭・地域・学校の協働による教育・スポーツ環境の充実

● Project 3 — 産業・雇用対策 —

『仕事応援プロジェクト』

安定的な仕事の確保による人口の定着に向けて、地域産業や伝統産業の振興と担い手の確保・育成を図るとともに、雇用機会の創出や就労環境整備、企業誘致の推進、新規産業の育成に取り組みます。

- 地域産業の振興と担い手の育成
- 雇用機会の創出と就労環境支援
- 企業誘致の推進と新規産業の育成

● Project 4 — 交流人口対策 —

『観光交流プロジェクト』

観光産業の育成をはじめ、新たな誘客戦略や越前ブランドの魅力向上を推進するとともに、交流拠点施設（プラントピア・越前陶芸村・道の駅「越前」・織田劔神社）の再整備を推進し、交流人口の増加を図ります。

- 観光立町を目指した観光産業の育成
- 新たな誘客戦略と越前ブランドの魅力向上
- 交流拠点施設の再整備・周辺整備

※リーディングプロジェクト関連施策は、基本計画における施策・事業に「★」印で示します。

第1章
計画のあらまし

第2章
まちづくりの基本認識

第3章
越前町の将来像

第4章
まちづくりの大綱

第5章
リーディングプロジェクト

第2編

基本計画

第5章 ふるさとの個性を活かし交流を育むまちづくり

第1節 観光地としての新たな魅力向上

5-1-1. 観光産業の活性化

■現状と課題

●豊かな観光資源を活かした観光立町の実現へ

本町は、「見る」「触れる」「食べる」「癒す」など多様な観光資源を有し、年間100万人以上もの観光客が訪れる県内有数の観光地となっています。平成27年10月に策定した「越前町総合戦略」では、「観光立町を目指した観光産業の育成」を重点施策の一つとして掲げており、観光資源を活かした新たな誘客戦略の展開と、それを支えるハード・ソフト両面の取組が求められます。

●交流拠点施設の充実とネットワーク化

町内にある主要な観光拠点施設(福井総合植物園プラントピア、越前陶芸村、道の駅「越前」、織田剣神社)については、一部の施設で老朽化が進んでおり、再整備や周辺整備の時期を迎えています。また、平成26年11月にオープンした道の駅「越前」を拠点とする越前地区には多くの観光客が訪れている一方、他の地区への波及効果に乏しい状況であり、観光拠点施設間のネットワーク化による観光商品・サービスの開発が求められます。

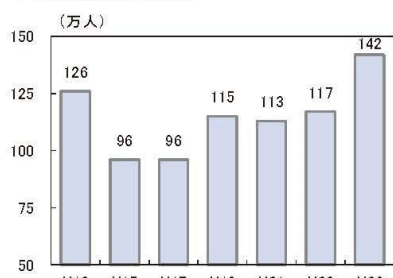
●地域産業等と連携した観光振興

農林水産業をはじめとする地域産業との連携により、農山漁村の伝統的風習や生活様式を活かした体験ツアー、自然や食を活かしたグリーンツーリズムなど、旅行者のニーズに対応できる地域づくり、人づくりが求められます。また、福井県でのスポーツ交流人口の受け入れ体制や環境整備が求められています。

●外国人観光客への対応

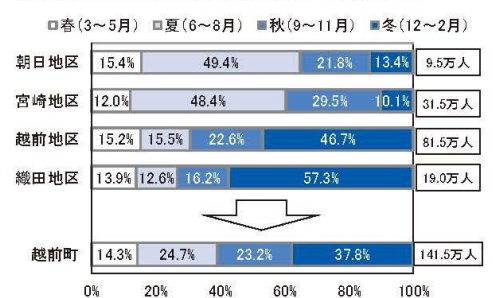
今後の人口減少や高齢化の進行などを背景に、国内観光需要の先細りが予想されることを踏まえ、東京オリンピックの開催を見据えたホッケーの町越前での国内外のキャンプ誘致や、国内の競技人口の増加を図り、スポーツ観光立町としての整備と組織体制づくりが求められます。また、外国人観光客の誘客拡大と受け入れ体制の整備が求められます。

▼観光入込客数の推移



(資料：(一社)越前町観光連盟調べ)

▼地区別の観光入込客数の季節別割合(平成26年)



(資料：(一社)越前町観光連盟調べ)

■第一次総合振興計画の実績と町民の評価

(1) 第一次総合振興計画に基づく施策・事業の主な実績

- 観光ボランティアガイドグループの育成をはじめ、文化・スポーツ合宿誘致事業による公共施設の利用促進と観光交流人口の増加推進、コミュニティバスを活用した観光周遊バスの運行、越前岬水仙ランド再整備事業再生プロジェクト委員会の設立と再整備内容の検討などに取り組みました。また、平成27年4月に一般社団法人越前町観光連盟が設立されました。

(2) 町民の評価(平成27年度町民意識調査結果より)

- 観光産業の活性化について、「満足・やや満足」との回答が27%、「不満・やや不満」との回答が43%となっています。
- 自由回答の中では、「越前町全体のイベントを増やし、観光客を誘致するべき」、「体験型の観光にシフトしていくべき」などの意見がみられます。

第1節 観光地としての新たな魅力向上
5-1-1. 観光産業の活性化

■施策の展開方針

①観光資源の魅力向上を図る

- 観光に関するビジョンを立案し、多様な観光資源の魅力向上を計画的に推進します。
- 交流拠点施設の整備・充実とネットワーク化を図り、観光資源の魅力を高めます。
- 自然、歴史、伝統工芸などのテーマに特化した着地型観光ルートを企画・実施します。
- 民間活力の導入による観光施設の魅力向上を図ります。
- 近隣市町との連携のもと、点ではなく面として相乗効果が発揮できるような広域観光を推進します。

②観光客や団体客の受け入れ体制を充実する

- 道の駅「越前」を核とした観光客の誘客拡大による観光産業の育成を進めます。
- 観光ボランティアの育成と活動の促進を図り、温かく観光客を迎えられる体制を目指します。
- 外国人観光客の誘客を促進するとともに、受け入れ体制の充実を図ります。
- 学生の文化・スポーツ合宿など、団体客の誘致を図ります。

③観光のブランドイメージを高める

- 情報発信ターゲットを明確にし、それに合わせたマスコミやホームページなどの多様なメディアを活用し、情報発信・PRを推進します。
- 「食・観・遊・癒・学」の魅力を活かしたイベントの開催を促進します。
- 特産品などを活かしたイメージ戦略を推進し、町のイメージアップによる誘客を促進します。

■施策・事業

施策・事業	実施時期	
	前期	後期
★観光資源の魅力向上		
◇町民・町・観光協会の連携による観光ビジョンの検討・策定	●	●
◇観光ビジョンに基づく観光資源の調査・研究・データ収集の実施		
◇水仙ランドの再整備による観光の振興		
★観光資源活用推進		
◇温泉施設の活用（ツアー開催時の利用促進）	●	●
◇自然、歴史、伝統工芸などのテーマに特化した着地型観光ルートの企画・実施		
★観光ボランティアの育成・活動推進		
◇“おもてなし”に関する研修会の開催（接客、接客、語学研修など）	●	●
★新たな誘客戦略の展開		
◇民間活力（指定管理者）などの導入による観光施設の魅力向上、多様なメディアを活用した情報発信・PR活動の推進、体験型観光による誘客促進、団体観光誘客企画・実施への支援、外国人観光客の誘客促進と受け入れ体制の支援	●	●
★観光拠点施設等再整備事業		
◇福井総合植物園プラントピア、越前陶芸村、道の駅「越前」、織田劔神社周辺などの観光拠点施設の再整備	●	●

★：リーディングプロジェクト関連事業

■目標指標

指標内容	当初値 (H26)	目標値 (H31)	目標値 (H37)	目標値の考え方
○年間観光入込客数	141.5 万人	230 万人	240 万人	観光目的で本町を訪れる人の年間入込 数

第1章
快適で安全に住み続け
られるまちづくり

第2章
誰もが健康で暮らしやす
く、実感できるまちづく
り

第3章
人が輝き豊かな心が
満ちあふれるまちづく
り

第4章
人と仕事の活力
みなぎるまちづく
り

第5章
ふるさとの個性を活か
し、交流を育むまちづく
り

第6章
持続可能な健全な行政
のまちづくり

(3) 町全体の観光入込客数の動向

- 本町の観光入込客数の推移(図1)をみると、平成27年に217万人と過去最多を記録しており、平成17年(合併当初)の96万人から2倍以上に増加しています。飛躍的な増加の主な要因は、平成26年11月の道の駅「越前」の開業であり、平成27年の入込客数は約74万人となっています。また、平成27年3月には一般社団法人越前町観光連盟が設立され、観光コンテンツの創造や情報発信の体制が整ったことも一要因と考えられます。
- 平成27年の月別の観光入込客数(図2)をみると、「水仙・カニフェア」の集客や劔神社の参拝客が集中する1月、「越前陶芸まつり」がある5月、「越前夏まつり」や「あさひまつり」がある7月、海水浴シーズンの8月、「越前かにまつり」がある11月は20万人以上の入込客数を記録しており、主に越前地区の特性を活かしたイベントによる集客が図られています。
- 平成27年の県内外客・宿泊有無の内訳(図3)をみると、「県外日帰り客」が50.5%と半数を占めており、「県内日帰り客」(29.6%)とあわせると、80.1%(173.8万人)が日帰り客となっています(平成26年比で62.5万人増加)。一方、宿泊客は20.0%(43.2万人)となっており、平成24年から割合は大きく変化していませんが、平成26年から約13万人増加しています。
- 平成27年の県外客の発地内訳(図4)をみると、「中京地方」が37.0%と最も多く、「関西地方」35.0%とあわせて72.0%を占めています。「関東地方」や「北陸地方」が相対的に少なくなっていますが、今後、北陸新幹線の延伸やインバウンド観光の推進などにより増加することが想定されます。

図1 越前町における観光入込客数の推移

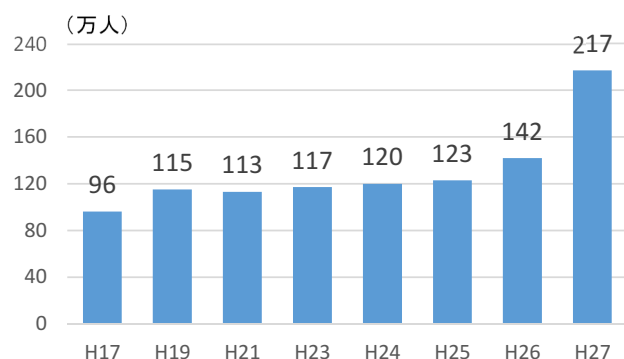


図2 月別の観光入込客数(平成27年)

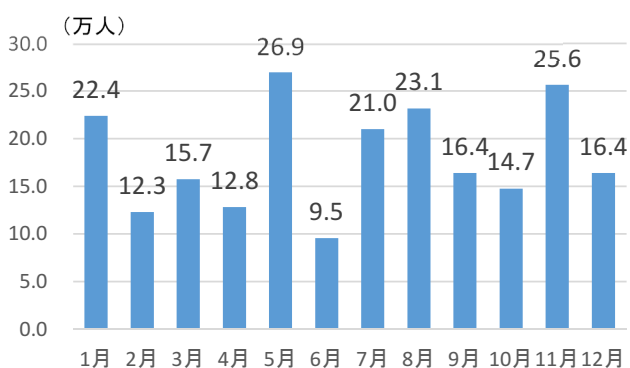


図3 県内外客・宿泊有無の内訳(平成27年)

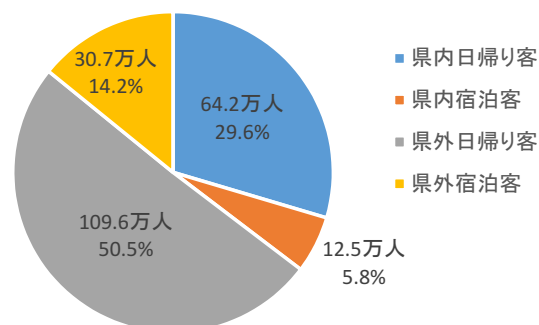
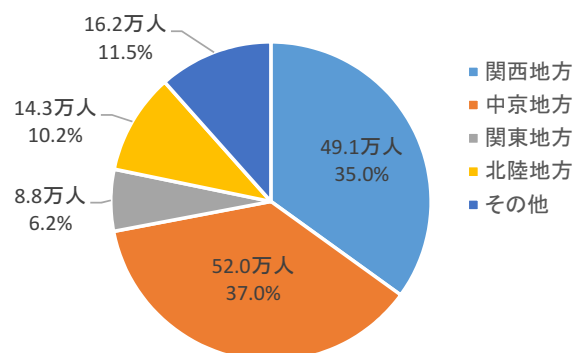


図4 県外客の発地内訳(平成27年)

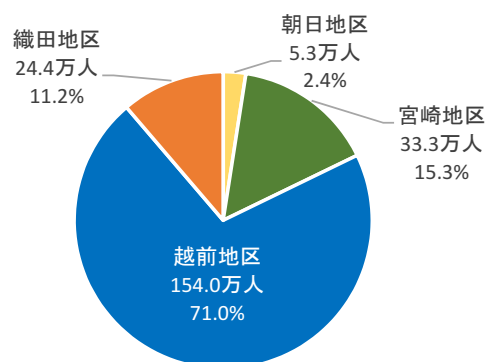


資料：越前町調べ

(4) 地区別・施設別の観光入込客数の動向

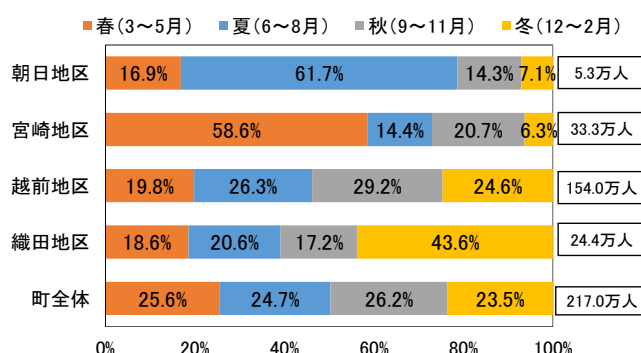
- 平成 27 年の地区別の観光入込客数(図 5) をみると、越前地区が 154.0 万人 (71.0%) を集客しており、本町の観光の要所となっています。次いで、宮崎地区 33.3 万人 (15.3%)、織田地区 24.4 万人 (11.2%)、朝日地区 5.3 万人 (2.4%) の順となっています。

図 5 地区別の観光入込客数（平成 27 年）



- 平成 27 年の地区別・季節別の観光入込客の割合(図 6) をみると、朝日地区では「あさひまつり」がある夏 (6~8 月)、宮崎地区では「越前陶芸まつり」がある春 (3~5 月)、織田地区では劔神社への参拝客が集中する冬 (12~2 月) の割合が高くなっています。

図 6 地区別・季節別の観光入込客の割合（平成 27 年）



- 越前地区については、四季のバランスがとれており、「越前夏まつり」や海水浴シーズンとなる夏、「越前かにまつり」がある秋、「水仙・カニフェア」がある冬の割合が同程度となっています。

- 各地区の主な交流拠点施設における観光入込客数の推移(表 1) について、平成 27 年と平成 26 年の差をみると、道の駅「越前」では+62.3 万人、越前陶芸村では+1.5 万人、劔神社・悠久ロマンの杜でも微増となっています。一方、越前岬水仙ランドでは-4,240 人、プラントピアでは-2,606 人となっており、施設によって明暗がわかれています。また、越前岬水仙ランドや劔神社では経年的に入込客数が減少傾向にあります。

表 1 施設別の観光入込客数の推移（単位：人）

地区名	施設名	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	H27-H26
朝日地区	プラントピア	11,506	9,953	11,405	8,799	-2,606
宮崎地区	越前陶芸村	116,851	104,695	105,247	120,543	15,296
越前地区	越前岬水仙ランド	20,736	22,725	19,757	15,517	-4,240
	道の駅「越前」	-	-	118,142	741,580	623,438
織田地区	劔神社	188,946	185,592	164,539	164,723	184
	悠久ロマンの杜	4,966	5,751	6,477	7,350	873

<観光入込客数の動向から見えてくる課題>

● 越前地区への観光客の集中 ⇒ 各地区・各施設の魅力を高めて回遊を促す仕組みが必要

- ・ 越前地区では、道の駅「越前」の開業や各種イベントの開催により観光入込客数が飛躍的に増加しています。一方、施設や地域によっては観光入込客数が減少しているところもあります。
- ・ 個々の交流拠点施設や周辺地域の再整備を行うことで魅力を高めるとともに、観光客が町内の各地区（各施設）を回遊したくなる仕組みを官民連携でつくっていくことが求められます。

